

令和7年度 神奈川県 英語教育改善プラン

目標

小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にし、
確実な英語によるコミュニケーションの能力を育成する。

☐ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表及び達成状況の把握
[公表]
R5 55.7%
[達成状況の把握]
R5 60.3%
- ②児童の他者との関わりに着目した言語活動の実践が増えてきている。

未だ改善が必要な点

- ①英語の勉強は好きですかの設問に肯定的な回答をした児童・生徒の割合
児童69%⇒生徒56%
- ②新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合 R6年度3%
(R7年度目標50.0%)
- ③外国語授業を専科教員のみが担っている傾向がある。

2. 要因分析

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表及び達成状況の把握において、全県指導主事会議や英語専科担当教員連絡協議会等での周知や事例紹介により、理解が広まり、数値が増加したと考えられる。
- ②英語専科担当教員連絡協議会等において、言語活動の重要性を繰り返し伝えたり、実践事例集の共有や協議をしたりして、目的・場面・状況を設定した言語活動を授業内で行うことを促したことが参加者の指導改善につながったと考える。

- ①地域により、小中連携の内容に差が見られる。小中連携が行われているものの、継続したカリキュラム作成など、実質的な連携につながっていない状況が原因であると考える。
- ②周知が十分ではない。
- ③専科教員による指導に頼り切っている現状がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①全県指導主事会議において、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表及び達成状況の把握について、好事例等を共有するなどして、各市町村での更なる推進を図る。
- ②AIを活用した英語教育強化事業を通して、AIを活用した授業モデルを構築するとともに、個別最適な学びを充実して児童の意欲や英語力の向上を図る。
- また、英語専科担当教員連絡協議会で、各学校での授業実践や有識者による講演等を通して、より一層の指導改善を図る。
- ①学校悉皆の研修として行っている授業力向上研修は、小中連携をテーマに開催する。言語活動を通して指導する等の視点から、小・中・高の学びの接続の重要性について周知する。
- また、AIを活用した英語教育強化事業において、小・中・高におけるAIの活用等について校種を越えて交流、協議を行う。また、報告会を通して、各校種における外国語教育の実践を全県に周知する。
- ②教員志望者対象の「かながわティーチャーズ・カレッジ」を実施し、教員をめざす受講者の英語資格取得を促す。
- ③英語専科担当教員連絡協議会において、専科教員に求められる役割を伝えていく。また、全県指導主事会議等で市町村担当者としてどのような取組ができるかを考え、共有する。

令和7年度 神奈川県 英語教育改善プラン

目標

小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にし、
確実な英語によるコミュニケーションの能力を育成する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：46.7％⇒R7：55％）

☐ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

○全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）言語活動の実施について
R5 R6

- ・聞くこと 79.3％⇒84.1％
- ・読むこと 81.5％⇒85.8％
- ・やり取り 69.1％⇒73.0％
- ・発表 83.6％⇒86.2％
- ・書くこと 84.8％⇒86.9％

全て昨年度から数値が上昇している。

○R6 英語教育実施状況調査から
①「遠隔地の教員やALTとチーム・ティーチングを行う授業」について、実施している学校が増加している。

R5 2.9％⇒R6 14.3％

②英語担当教師の英語力の状況に
上昇傾向が見られる。

R5 44.9％⇒R6 46.5％

① 生徒の英語力の状況に上昇傾向
が見られるが、未だ改善が必要であると
捉えている。

R5 42.7％ ⇒R6 46.7％

②R5全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙調査の結果から、
「英語の勉強は好きですか」の設問に
肯定的な回答をした児童・生徒の割合に
差が見られる。

児童69％⇒生徒56％

2. 要因分析

①言語活動を行う目的や場面、状況を生徒としっかりと共有してから行う授業が増えてきていると捉えている。

②教員のICTを活用するスキルの向上やICT環境が整ってきていることが影響を与えていると捉えている。

③英語の授業を英語で行うことへの理解が広まり、自身の英語力を高める努力をしている教員が増加していると捉えている。

①地域間の差が見られる。また、各学校の目標設定の見直しや適切な達成度の見取りが必要であると考えられる。また、教員が生徒の英語力を過小評価する傾向も一因と考える。

②小学生と比較すると中学生の肯定的な回答の割合が低いことから、英語学習に対する苦手意識をもっている生徒が多いと捉えられる。これは、小・中学校での指導の系統性が保たれていないことが原因の一つであると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①英語授業力向上研修や全県指導主事会議等を通じ、「言語活動」を通して指導する必要性や、共通したカリキュラム作成の具体例等を引き続き周知していく。

また、高校教育課と連携を進め、小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にするとともに、各校種の指導の具体例について共有していく。

②AIを活用した英語教育強化事業を通して、AIを活用した授業モデルを構築するとともに、個別最適な学びを充実して生徒の意欲や英語力の向上を図る。

また、学校悉皆の研修として行っている授業力向上研修は、小中連携をテーマに開催する。言語活動を通して指導する等の視点から、小・中・高の学びの接続の重要性について周知する。

（参考URL：神奈川県教育委員会 学習評価（義務教育諸学校）

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f6679/index.html>



改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和 7 年度 神奈川県 英語教育改善プラン

小・中・高の学びの接続に係る課題を明確にし、確実な英語によるコミュニケーションの能力を育成する。
○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 55.3%、B1以上 25.7% ⇒ R7 : A2以上 56.6%、B1以上 32.0%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増 (R5:53.8% ⇒ R6:55.3%)
- ②学習到達目標の整備状況 (達成状況の把握) が改善 (参考 : R5:88.1%)
- ①生徒の言語活動 (R5:54.7% ⇒ R6:55.5%)
- ②教師の英語使用 (R5:28.9% ⇒ R6:45.0%)
- ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (R5:30.2% ⇒ R6:37.7%)
これらに引続き改善の余地がある。

2. 要因分析

- ①②各学校のCAN-DOリストに基づいた「何ができるようになるか」の視点からの学習活動の実施の意識向上
- ①外国語における個別最適な学びと協働的な学びを意識できておらず、教室での学びに多くの時間を知識・技能の習得にかけていることが要因と考えられる。
- ②知識・技能の習得のため、言語活動が不足していることから教師の英語を即興で使用する場面が不足している。
- ③「外国語」の目標及び適切な評価方法についての理解は進んでいるものの、確実なパフォーマンステストの実施や質の向上につなげられていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②「指導と評価の一体化」の推進
教科等別教育課程説明会や公開研究授業等を通じて全体への発信と各学校へ個別のフィードバックを行う。
- ①②③「AI英語強化事業」
授業等での生徒によるAIの活用 (練習量の増加や動機付けの強化に向けた効果的な実践)、授業等での教師によるAIの活用 (教材・課題作成の実践、パフォーマンステストに向けた活用) を研究・事例を普及する。
- 「英語資格検定試験活用促進支援事業」
本県におけるグローバル教育研究推進校 5 校にて、同じ英語資格検定試験を受験し、試験で得られた英語 4 技能に関する成績データを踏まえ、技能別の達成度に応じた授業等における改善の取組み、好事例を普及する。

神奈川県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55.0	53.8	55.0	55.3	56.6		58.3		60.0		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	30.0	23.4	30.0	25.7	32.0		34.0		35.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	60.0	54.7	60.0	55.5	70.0		75.0		80.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	66.0	30.2	66.0	37.7	70.0		75.0		80.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表(%)	100.0	90.9	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握(%)	100.0	88.1	100.0		100.0		100.0		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75.0	79.1	80.0	79.7	80.0		80.0		80.0		
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	70.0	28.9	70.0	45.0	70.0		70.0		70.0		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）	50.0	42.7	50	46.7	55		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）	75.0	71.2	75		80		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）	100.0	96.6	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100.0	92	100	100		100		100	
		公表（％）	80.0	75.4	80	90		100		100	
		達成状況の把握（％）	80.0	71.4	80	80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）	50.0	44.9	50	46.5	50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）	74.0	59.9	65		70		75		80	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80.0	76	80	82		84		85	
		公表（％）	40.0	55.7	50	58		60		65	
		達成状況の把握（％）	60.0	60.3	62	63		64		65	